

UDCBK 令和4(2022)年度 事業計画

1. はじめに

UDCBK は、「草津のまちづくりの推進のために、産・学・公・民が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得て、互いの良さを活かしつつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と情報発信を行う」こととして、各年度の事業計画を立てて取組みを進めてきている。

令和 3 年 10 月に策定・公表された「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)」は、将来像を「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」として、草津市としてその実現に向けて各種事業を取組むこととしている。

今年度は、以上をふまえて、産官学民連携によるまちづくりのプラットフォームとして、さらに都市空間をデザインするための学習事業や社会実験の取組み等を展開する。

2. 事業プロジェクト**(1) 都市デザイン連携プロジェクト**

多くの都市で街路空間を車中心から“人間中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って人々が集い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく「街路空間の再構築・利活用」により居心地が良く歩きたくなる街路づくり実現の取組みが進められている。草津市が国交省の進める「ウォーカブル推進都市」に賛同しウォーカブルなまちづくりを進めていることをふまえ、全国の先進事例に学びながら南草津ビジョンの推進を「ウォーカブルな都市空間の創造」の側面から関係部署と連携しながら取組みを進める。

<南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり>

南草津ビジョンに掲げられる南草津駅周辺における魅力ある滞留・交流空間の創出として、南草津駅西口の東山道記念公園等の公園の利活用の検討を行い、市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出の取組みを進める。

今年度は東山道記念公園でのマルシェやみなくさまちライブラリーを行う予定。

<南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進>

多くの車中心の地方都市での駅前の公共空間は主に車の一時停車と歩行者の通過動線として利用されており南草津駅も例外ではない。駅周辺に人が留まることのできる空間が少ないとの問題意識から、人々が滞留したくなる魅力的な空間づくりを建築物の屋内・歩道にまたがる公民連携空間の利用促進により、健幸都市を標榜する草津市らしい「歩いて暮らせるウォーカブルなまち」を実現する取組みを進める。

今年度は草津市都市計画部で実施される南草津駅周辺の交通対策事業に UDCBK として連携して進めるほか、ストリートピアノの社会実験的な設置などについても検討を進める。

(2) 都市と交通プロジェクト

令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートした本プロジェクトは、令和2年度の市民ワークショップにもとづくシナリオ提案を行い、令和3年度は南草津ビジョンを進めるための学習をセミナー等で実施した。また南草津駅での2回にわたる県・市の交通社会実験から中長期対策として、①交通渋滞の緩和(交通処理能力を上げる対策、交通量を下げる対策)、②公共交通の利用環境改善(公共交通の利便性向上、歩行者中心の駅前整備)をあげている。

今年度は交通社会実験の結果を基に草津市都市計画部で実施される南草津駅周辺の交通対策事業に UDCBK として連携して進めるほか、郊外住宅地における歩いて暮らせるまちづくりについても検討を進める。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 7,000 名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組を進めることは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題である。

令和3年度後期から立命館大学 BKC 地域連携課より職員派遣が行われたことを受け、公学連携を進め課題の共有をはかりつつ、BKC のフロントゾーンにおける地域連携の展開も含めて共同の取組みを追求する。

3. 学習事業

学習事業は、オンラインと UDCBK での受講を併用することを基本として運営する。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各 5 回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

また、スクールの修了者と UDCBK のまちづくりを推進する企画運営に参画できる仕組みや連携策などを検討する。

前期は「多世代の居場所となる駅前の地域拠点施設について考える」をテーマに JR 南草津駅前の公共施設の在り方について 6 月から 1 か月に 1 回のペースで 5 回開催する。

前期	開催日	内 容
第 1 回 ①	6 月 23 日	テーマ: 公民連携による地域拠点施設の再生 講師: 阿部 俊彦 氏 (UDCBK 副センター長 立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科 准教授)
第 2 回 ②	7 月 9 日	テーマ: 全国の地方都市の駅前再開発と地域拠点施設 講師: 辰巳 寛太 氏 (株式会社アール・アイ・エー 東京本社 開発企画部 室長)

第3回 ③	8月5日	テーマ: 地方都市の駅前の賑わいづくりとまちづくり会社 講師: 岩崎 正夫 氏(まちづくり福井株式会社 代表取締役社長)
第4回 ④	9月8日	テーマ: インクルーシブな居場所となる地域拠点施設 講師: 岡田 昭人 氏(早稲田大学 都市・地域研究所 招聘研究員)
第5回 ⑤	10月7日	テーマ: 稼働率100%の地域拠点施設のマネジメント 講師: 山下 裕子 氏(まちなか広場研究所 主宰、UDC 信州 アドバイザー)

(2) アーバンデザインセミナー(年間9回)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。

これまでは各回ごとにテーマを定め開催していたが、今年度は「大学のあるまち、学生のいるまち」を大きなテーマとし、大学や学生がまちづくりにどのように関係しているかなど、セミナーを通じ学習できる内容として開催する。

テーマ: 「大学のあるまち、学生のいるまち」

第1期: 「つながりのあるまち」 7月～9月 毎月1回

第2期: 「未来のまち」 10月～12月 毎月1回

第3期: 「健やかなまち」 1月～3月 毎月1回

4. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する7大学を対象にUDCBKの提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

今年度は、前年度までの枠組みを踏襲した運用を図りつつ、より草津市のまちづくり、とりわけ南草津ビジョンの実現に資するような取組みを重視して募集し、審査の上、下記事業について採択した。

A 区分

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名
ウォーカブルな健康都市づくり	音環境デザインによるウォーカブルな街路空間の創出	立命館大学	理工学部 教授 塩見 康博
市民の居場所としての魅力ある公共施設・公共空間づくり	地域と大学の連携による気軽に滞在できる居場所の創出 ～南草津駅周辺の公共施設・公共空間デザインワークショップ～	立命館大学	理工学部 助手 寶珍 宏元
市民の居場所としての魅力ある公共施設・公共空間づくり	ナッジによる行動変容を活かした安全で快適な公共空間づくり	滋賀県立大学	人間文化学部 准教授 山田 歩

B 区分

募集テーマ	応募事業名	応募大学	事業責任者名
歴史と文化、景観の魅力を活かすまちづくり	水辺の景観・歴史・文化を再考する住民参加型ワークショップ	立命館大学	理工学部 准教授 金 度源

5. オープンスペース

新型コロナ感染症拡大からスペースが制限され、従来の交流・学習・協議が著しく影響を受け、学習事業がオンライン形式にシフトするなど利用形態に変化が生じている。また、現在地に移転後、児童生徒の学習スペース利用が拡大し、改めて南草津駅周辺での滞留することができ、また、自由に活用することができる公共空間が乏しいことが明らかとなった。“まちの広場”としてのオープンスペースを当面は維持しつつも、UDCBK のミッションに照らしながら本事業の見直しを進める。

6. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、UDCBK のコンセプトや目的など市民的理解を得ることが重要であり、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画などの発信だけでなく、UDCBK では何を目的にどのような取り組みを行っているのかを重視した情報発信を行うことが課題である。令和 4 年 1 月より Facebook に加えてInstagramでの発信を開始し広く情報発信を行っている。令和 4 年度もホームページや SNS での発信の充実を図る。

7. 法人化検討

全国の自治体で“「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出による「魅力的なまちづくり」が進められているが、その多くがエリアプラットフォームの構築や未来ビジョンの策定による自立自走型システムの構築を目指している。草津市は UDCBK という産学公民連携のプラットフォームをもち南草津ビジョン策定済みという全国的にも一定進んだ取り組みを行ってきており、また発足時より市営という全国 UDC の中でも珍しい運営形態をとっている。

上記のような全国状況やオープンスペースのあり方などについて、令和3年度に UDCBK 事務局内で行ったブレインストーミング等の検討過程も踏まえ、運営形態に関わる検討をさらに深める。

8. その他

- (1) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催するとともに、この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取組みを強化する。
- (2) 全国の UDC の先進的な取組に学び、全国組織 UDC ネットワークとの交流を深める。